

2018年度第1四半期決算説明会(2018年8月3日開催)

主な質疑応答の内容(要旨)

※ 説明会開催日(2018年8月3日)時点の情報に基づく内容です

Q. 今回からMRJ投資の影響を除いた「定常収益」を開示したことの狙いを教えてください。また、第1四半期決算の結果をどのように評価していますか？

A. MRJ事業については、現状売上がない中で研究開発費を中心とした投資を継続していますが、当社全体の経営に与える金額的影響が大きい為、投資家との対話の中で、本来の会社の経営状態が掴みづらいというご指摘をいただくこともあります。当社に対する理解を深めていただく上で最も大切なことは、事業を遂行していくための収益力がどの事業にどれだけあるのか、また、次世代の製品事業投資の原資となるキャッシュ・フロー創出力がどこにあるのかを明示することであると考えています。当社が2012事業計画及び2015事業計画を通じて進めてきた各種施策の成果が、定常収益力としてしっかり現れていることをご理解いただくために、今回このようなかたちでの情報開示に至りました。

通期見通しに対する第1四半期の業績については、MRJ投資の影響を控除した定常収益ベースで見ると、通期では事業利益2,500億円、親会社の所有者に帰属する当期利益1,700億円を予定しているところ、第1四半期決算の実績としては事業利益が540億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益が377億円となりました。例年当社では、年度末にかけて利益が多く計上される傾向にあり、SBU (Strategic Business Unit) 別の詳細な分析結果を勘案しても、まずまずの出だしであったと評価しています。

Q. 前年同期と比べてパワードメインの事業利益が改善した要因として、原子力の売上増加が挙げられると思いますが、他にはどのような改善要因がありますか？

A. 損益改善要因のうち、約半分は原子力によるものです。それ以外では、ガスタービンや航空エンジン、コンプレッサの売上が好調であったことが寄与しています。パワードメイン全体としては、概ね期首に想定していたとおりの進捗であったと評価しています。

Q. ガスタービンの市場動向を踏まえた上で、第1四半期の実績の評価及びこれからの見通しについてどのように考えていますか？

A. ガスタービンについては、総じて厳しい市場環境が続いていることに変わりはありません。第1四半期には大型ガスタービンの受注が無く、それがパワードメインの受注額減少の大きな要因となっていますが、内定を得ている案件は複数あるため、年間では当初見通しを達成できる可能性は高いと考えています。
収益の柱であるアフターサービスに関しては、ガスタービンの納入台数とプラント稼働

率に対して緩やかな相関関係があります。当社の既納ガスタービンプラントの稼働状況をみると、ヨーロッパや北米市場での稼働率は低調ですが、これらの地域への納入台数は多くありませんので、影響は限定的であると考えています。一方で、日本や台湾、韓国、東南アジア等、当社が強みを持つ地域では比較的プラントの稼働率が高いため、アフターサービスから得られる収益に関して、今年度は大きな変動は見込んでいません。また、当社の既納プラントは高効率で比較的新しいものが多く、アフターサービスの伸び代は一定程度あると考えています。

Q. I&Iドメインの第1四半期の業績を見ると、通期の計画に対して進捗が低いように見えますが、どのように評価していますか？

A. I&I ドメインに関しては、受注品系と量産品系の事業に分けて説明します。まず、受注品については、前年同期に比べて商船や製鉄機械のマイナス幅が縮小しており、これが増益要因となっている一方で、化学プラントの売上減少等が減益要因となっています。量産品に関しては、ターボチャージャやエンジン、冷熱の売上が堅調に推移しており、これらの要素を全て合算すると、前年同期比で30億円程度損益が改善しています。

Q. MRJ投資に関する会計処理について、IFRSにおいても費用計上するものと資産計上するものがあると認識していますが、第1四半期のMRJ投資額225億円の中には資産計上分も含まれているのでしょうか。また、年間のMRJ投資額900億円に対して、第1四半期の投資額が225億円とちょうど1/4ですが、第2四半期以降も毎四半期同レベルの投資が発生すると考えて良いでしょうか？

A. 量産機用の機体材料等を一部B/Sに計上していますが、主たる開発投資については費用として処理しています。四半期毎のMRJ投資額が必ずしも同レベルになるかについては、明言できませんが、開発スケジュールやコストの見通しは立っており、年間の投資額は900億円に近い額になると想定しています。

以上